

3D デジタル矯正歯科治療システムの優位性 ～アナログからデジタル化へ～

Advantages of 3D Digital Orthodontic Treatment System ～ Move to Digital from Analog ～

竜 立雄 Tatsuo Ryu

RYU 矯正歯科クリニック郡山プレミア 院長

日本矯正歯科学会 指導医・認定医

日本アンチエイジング歯科学会 認定医

厚生労働省歯科医師臨床研修 指導歯科医

1997 年 3 月 奥羽大学歯学部卒業

1997 年 5 月 奥羽大学歯学部附属病院臨床研修医

1998 年 4 月 奥羽大学大学院歯学研究科（歯科矯正学専攻）

2002 年 3 月 奥羽大学大学院歯学研究科（歯科矯正学専攻）博士（歯学）学位受領

2003 年 4 月 奥羽大学歯学部小児歯科学講座 助手

2005 年 4 月 奥羽大学歯学部歯科矯正学講座 助手

2005 年 4 月 東北歯科専門学校 非常勤講師

2007 年 4 月 奥羽大学歯学部成長発育歯学講座歯科矯正学分野 講師

2022 年 5 月 The Northern California Edward H. Angle Society Affiliate Member

2022 年 6 月 RYU 矯正歯科クリニック郡山プレミア 開設 院長

近年の矯正歯科領域において、アナログからデジタルへ移行するデジタルトランスフォーメーション（DX）の潮流が加速していることは言うまでもない。

私は、矯正歯科専門開業して、院長としてはたかが 1 年目の矯正歯科医である。人で例えるなら生後 1 歳児と同じで、これから正常な発育・発達を遂げ、成長していける環境を整えることが大切な段階である。新規開業する上で、患者様に満足していただける矯正歯科治療を提供するために何が本当に必要なツールなのか、そして、スタッフたちと院長としての自分のためにクリニックとして有益なシステム構築について思考し、自問自答した。新規開業でデジタル機器に初期投資するリスクとベネフィットの狭間で、効率的に良質な治療結果を得られることがアナログからデジタルへ移行する DX の最も重要な目的と考えたからである。

私は現在、ラビアル、リンガルのマルチブラケット装置によるワイヤー矯正治療、マウスピース型矯正装置を用いたアライナー矯正治療を行っている。本講演では、私の矯正治療の主軸となっているプリアジャステッドアプライアンスを用いたストレートワイヤーエッジワイズ法の 3D デジタル矯正歯科治療システムへの臨床応用として、SYMPHONY® について紹介する。SYMPHONY® は、CBCT データから抽出された歯根を連動させたセットアップができるフルデジタルセットアップ I.D.B システムである。当院で導入した本システムの診断とデジタルワークフロー、そして今後の 3D デジタル矯正歯科治療の優位性について文献考察も含めてお話したい。

昨年、本学会の設立記念の第1回学術大会で座長を務めさせていただき、これからの矯正歯科の未来を感じ、大きな刺激をいただきました。今回は、技術革新を共に学ぶ貴重な時間を皆様と共有できることを楽しみにしております。